



独立行政法人 国立病院機構

村山医療センターニュース

理念

患者さんの視点に立ち、良質で高度な医療を提供します。

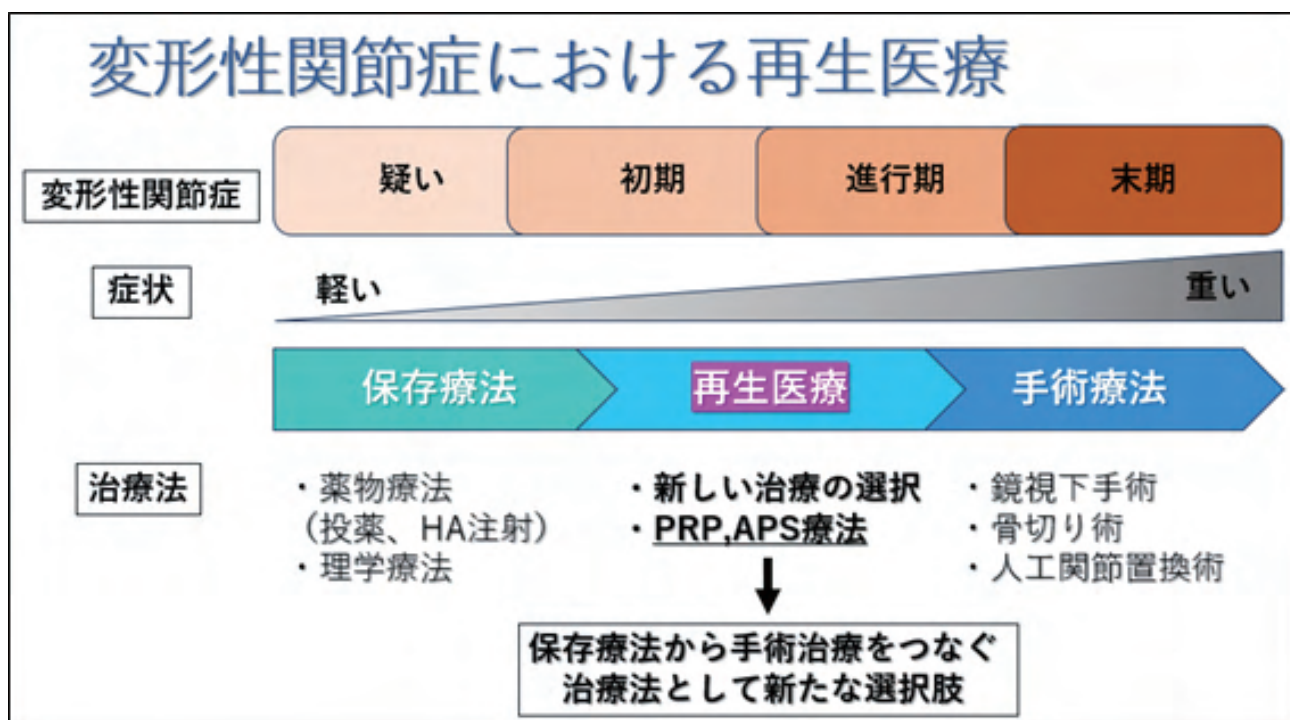
基本方針

- 患者さんの権利と意思を尊重します。
- 安全で優しいチーム医療を提供します。
- 倫理を重んじ高度で先進的な医療を提供します。
- 地域医療連携の促進を図ります。
- 骨・運動器疾患の臨床研究を推進します。
- 職員は研鑽に励み、健全な経営に努めます。

APS 療法（次世代 PRP）について

副人工関節センター長 清水 英徳

当院では、令和6年1月から変形性関節症に対する再生医療の一つである APS 療法（次世代 PRP 療法）を開始します。



（1）変形性関節症とは？

関節の軟骨が減って、痛みや変形、動きの悪さを生じる疾患です。あらゆる関節が変形をきたす可能性があります。とくに膝関節や股関節のような荷重がかかる関節の変形は歩行時の痛みの原因となり、歩くのが困難になるなど生活に支障をきたします。

（2）再生医療とは

これまで、変形性関節症に対する治療は、

- ①保存加療： 痛み止めの内服薬や湿布などの投薬加療、ヒアルロン酸注射などの関節内注射、筋力強化訓練や可動域訓練などの運動療法や物理療法など。
- ②手術加療： 鏡視下手術、骨切り手術、人工関節置換術などが行われてきました。

再生医療とは、ケガや病気で機能を失った組織を修復したり再生したりする治療の事です。再生医療は近年、保存療法や手術療法といった従来の治療法に加えて、PRP 療法を含めた再生医療が第3の新たな治療の選択肢として患者さんに提供することが可能となります。

（3）PRP 療法とは？

PRP（Platelet-Rich Plasma：多血小板血漿）療法とは、患者さんの血液から血小板を濃縮して、血小板に含まれる活性の高い成長因子などを膝関節など患部に直接注入する治療法です。

血小板から放出される成長因子は、傷んだ組織の修復を促す効果があり。変形による痛みの抑制に加えて軟骨の保護効果も期待できるのが、PRP 療法の利点である。

これまでには難治性皮膚潰瘍や褥瘡などの皮膚科や口腔・歯科領域で使用されていた治

療法ですが、近年では整形外科領域でも活用されています。

一般的には、1週間～6か月で組織の修復が始まり、投与開始後2週間～3か月までに効果が期待できると言われております。

(4) APS療法とは？

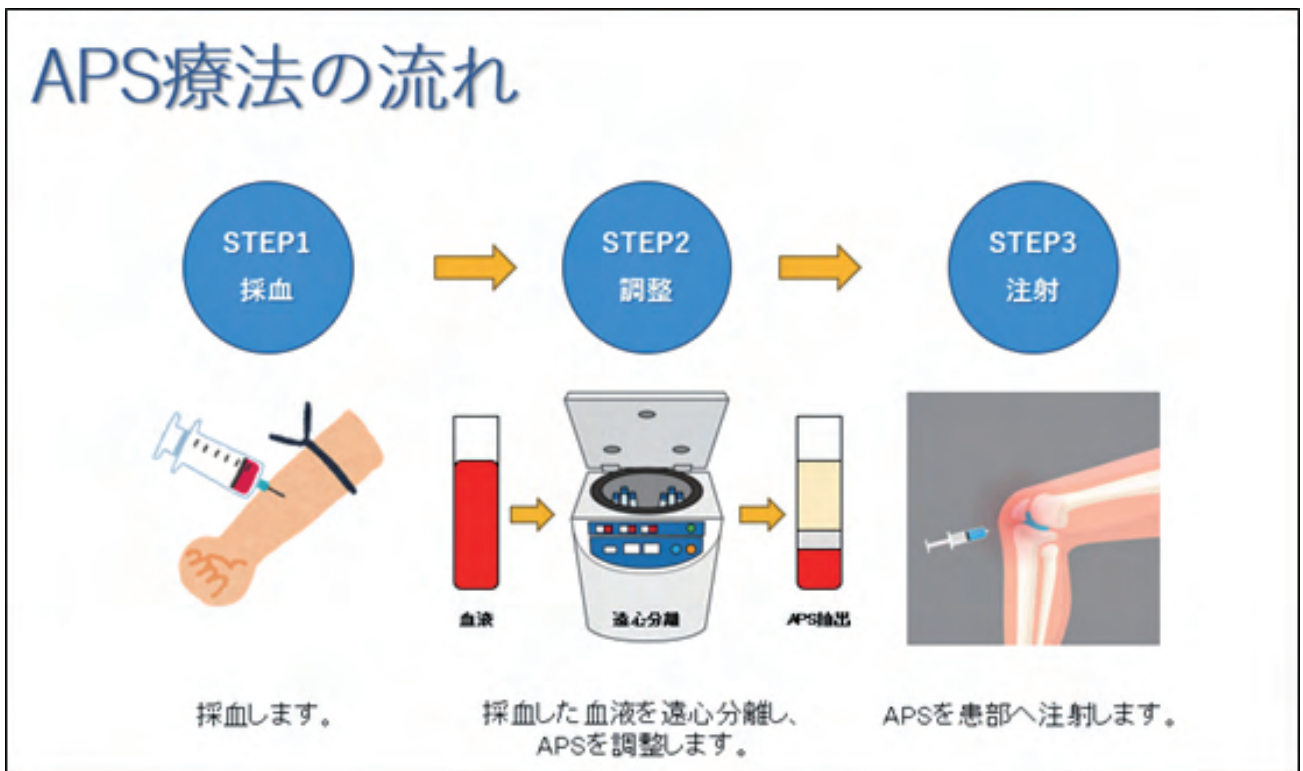
APS (Autologous Protein Solution：自己たんぱく質溶液) 療法とは、次世代 PRP とも呼ばれており、PRP をさらに遠心分離、加工することで、炎症を抑える抗炎症性サイトカインと、軟骨を保護する成長因子を高濃度に抽出したものです。PRP よりさらに炎症の軽減や軟骨破壊の抑制の効果が期待できます。

一般的には、1週間～4週間程度で組織の修復が始まり、投与開始後2週間～3か月くらいで効果が期待できると言われております。APS 1回投与で最大 24 か月効果が続くとの報告もあります。ただし、治療効果には個人差があります。

APS療法の流れは？

(1) 外来での診察、検査

一般的な整形外科の診察、画像診断等を行い、変形性関節症の診断をされた患者様が対象です。投薬や治療他の保存療法で症状改善があまり見られない患者様の中で、診察や画像診断上、APS療法の適応で、なおかつ患者様本人が希望された場合、患者様に治療の説明と同意をいただき、治療日を決定します。



(2) 治療当日

- ①患者様ご自身の血液を使用するため、まず採血（約 55ml）を行います。
- ②採血した血液を遠心分離（2回）行い、APSを調整します。

③調整された APS を患部へ注入します。

所要時間は約 1 時間で、注射後はそのままご帰宅できます。治療当日は飲酒や過度な運動などはお控えください。

(3) 治療後

外来にて治療効果の確認や副作用の有無をチェックするために、定期的に受診していただきます。

APS 療法の長所と短所について

(4) 長所は？

- ・ APS 療法は、患者様ご自身の血液を採取して使用するため、副作用のリスクが低く、安全性は高いといわれております。
- ・ APS 療法は変形性関節症の治療において、従来の保存療法から手術治療をつなぐ第 3 の治療法として新たな選択肢を患者に提供することが可能です。手術のリスクや回復期間を避けることができます。
- ・ APS 療法は、変形性関節症による痛みや腫れなどの症状を軽減することができ、軟骨組織の損傷を修復したり、機能を改善したりする効果が期待できます。

(5) 短所は？

- ・ APS 療法は、患者様の症状の程度によって効果にばらつきがあり、劇的な改善が期待できる一方、あまり効果が見られない場合もあります。この治療によって確実な効果を保証するものではありません。また、長期的な効果については、まだ十分に解明されていない部分があります。
- ・ 日本では現時点では保険診療の適応外となっておりますので、自費診療となります。

再生医療に興味がある患者様へ

現在、APS 療法はじめ、様々な再生医療が行われております。どの治療も、痛みや症状がすべて 100% なくなるような夢のような治療までは至っていないのが現状です。ただ、適応をしっかりと見極めれば、従来の投薬や注射などの保存療法で改善が乏しかった症状が、APS 療法によって改善する可能性は十分あります。

再生医療や APS 療法に興味を持っていらっしゃる患者様は、適切な情報を得て医師との相談を通じて最適な治療選択を検討することが重要です。

変形性関節症に対してこれまで保存療法を色々やってみたけれど、症状が改善しない患者様で、まだ手術療法までは考えたくないという方は、一度当院の関節専門の医師に遠慮なくご相談ください。

能登半島地震への医療班派遣について

管理課長 木崎 輝男

令和6年1月1日16:10 震度7(M7.6)の地震により能登半島においては建物の崩壊、津波、地盤の隆起などにより広範囲にわたる甚大な被害が生じ、多くの被災者が避難所での生活を余儀なくされています。

村山医療センターにおいては国立病院機構の協力要請にいち早く対応し、医療支援のため1月19日より被災地へ医療班チームを派遣いたしました。

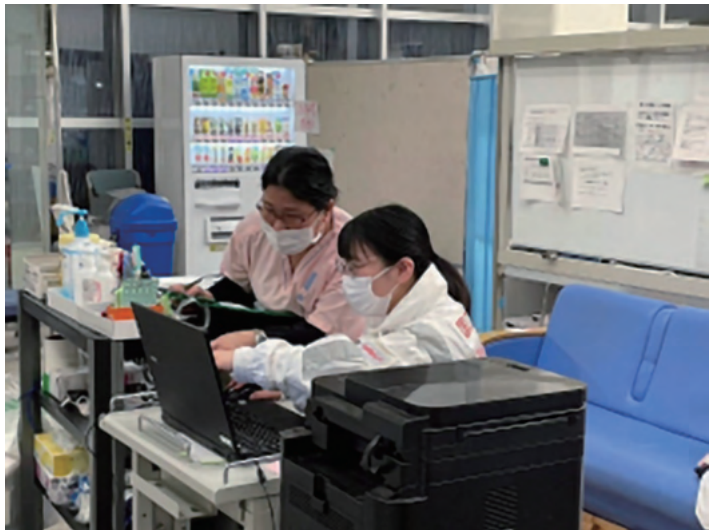


派遣された輪島市へ近づくとつれ倒壊する建物、崩れ落ちる道路、がけ崩れなどが多くみられ慎重な運転が求められる状況となっていました。また、医療チームのみならず、復興に向かう多くの車両等により渋滞も発生し輪島市への到着まで金沢から4時間以上を要する状態となっていました。



輪島市内は建物が崩壊し道を寸断し道路はいたるところで陥没やアスファルトがめくれ上がり危険な状況であり、多くの橋はほぼすべてに段差が発生している状況となっていました。到着後ただちに、輪島市役所内の輪島市保健医療福祉調整本部より鶴巣（このす）小学校（避難者約40名）・横地ふれあいセンター避難所（避難者約20名）でのスクリーニング調査および診療巡回の指示を受け、避難所環境の調査を行い患者の診療にあたりました。医師・看護師・薬剤師の対応により診察、処方を行うなか被災者の方に感謝されたことはチームにとって今後の活動への力となりました。

その夜は輪島市立病院における、夜間救急外来を受け持ち患者の診療にあたりました。輪島市立病院においては職員の多くが被災しているにもかかわらず日々の診療や夜間救急を受け入れ懸命な対応が行われていました。職員の方が、少しでも休息できるような時間を確保するため協力をさせていただけたことは大変名誉な業務であったと思います。



翌日は午後より輪島市立中学校での避難所活動を実施いたしました。避難者 400 名規模の避難所であることから、すでに医療チームや自衛隊、行政機関などが常駐していることから状況を確認し、お互いの情報を共有させていただくことで今後のより良い避難所環境を確保するため活動を行いました。

さらに翌日については5か所の避難所（藤池集会所・ふれあいプラザ二勢・大屋公民館・輪島ミドリ保育園・一互一笑）を巡回し、診療・処方やスクリーニング調査を行いました。

市街の避難所までの道路は凹凸が激しく、片側が崩れた道など慎重丁寧な運転を行い訪問しました。そのような避難所においても多くの被災者の方が温かく迎えてくださったことが印象に残っています。

つづきまして医療班の生活について記載させていただきます。夜間については先述したとおりの道路状況であるため活動を行うことは大変危険であり行動することはできません。

輪島市立病院の配慮により空き病棟を1室お借りし宿泊いたしました。輪島市立病院は電気は使えるものの給排水が使用できないため水道・トイレは使用することができない状況でした。排水することができないため持参した水で



手を洗うこともできません。トイレは駐車場に置かれた仮設トイレを使用する状況となっています。空き病棟のホールで持参した非常食の食事をとり、ごみは全て持ち帰ることを徹底し病院に迷惑をかけないように努めました。ベッドは4つあるもののリネン類は無いため寝袋を使用しましたが、1名は車中泊といたしました。被災者の方に比べれば快適な状況であることは言うまでもありません。



我々のチームが被災者の方々の復興のために少しでも役に立てたかはわかりません。それでも多くの被災者の方に温かく迎えられ「ありがとう」という言葉をいただけたことは、それだけで今回の派遣が成功であったのではないかと感じています。復興には相当の時間がかかることは言うまでもありませんが、村山医療センターは今後も復興に向けた協力を継続して行く予定としております。



最後に今回の地震により被害を受けられた方へ哀悼の意を表するとともに、被災された方、そのご家族及び関係の皆様にご心よりお見舞い申し上げます。

また、能登半島の復興を心よりお祈り申し上げます。



輪島市の現状

派遣時の輪島市の様子を掲載いたします。倒壊した家屋等、多くの状況を記録いたしましたが住民の方、被災者の方の心情を考慮し不掲載としております。



輪島市立病院



各避難所の様子（すぐ近くには危険な個所も多く存在していた）





道路はいたるところで陥没や隆起が見られ危険な状況

※ インスタグラムにも掲載しておりますのでご覧ください。



@MURAYAMAMEDICAL

WalkAgain2023 「iPS細胞を使った脳と脊髄の再生医療」

2023年10月28日土曜日、秋葉原コンベンションホールにて脊髄損傷の再生医療の会合、講演会、パネルディスカッションが行われました。この会は毎年行われており、多くの脊髄損傷の方と家族の方が参加されています。慶應義塾大学医学部生理学教室の岡野栄之教授、慶應義塾大学医学部リハビリテーション学教室の辻哲也教授、京都大学iPS細胞研究所の高橋淳所長、国立病院機構大阪医療センター臨床開発センター長の金村米博先生の講演がありました。



会に先立ち自見はなこ参議院議員より挨拶がありました。当院からは小林喜臣医長がパネルディスカッションに参加し、谷戸院長が来賓として挨拶させていただきました。



iPS細胞を用いた最先端の研究について紹介され、活発な質疑応答がなされました。慶應義塾大学医学部整形外科学教室の中村雅也教授も何回もご発言され会は盛況でした。



自見はなこ議員 谷戸院長 中村雅也教授



第50回武蔵村山市民駅伝競走大会報告

庶務班長 田島 郁也



令和5年12月10日（日）に第50回武蔵村山市民駅伝競走大会が開催されました。昨年はグラウンドにおける周回コースでの開催でしたが、本年は一般公道での開催となり、全98チームがエントリーしました。

当センターからはドクターチーム、リハビリ科から2チーム、女子チーム、事務部チームの計5チームがエントリーしました。昨年も5チームエントリーしたのですが、コロナの影響等で3チームしか出場できず、悔しい思いをしましたが、本年は無事に全チームがスタートラインに立つことができました。

公道コースとなっても、ギャラリーはコース全体の沿道で応援しており、熱気が伝わってきます。また、運動部で構成されたチームも複数出場しており、間近で観戦すると迫力を感じました。

レースの結果ですが、リハビリ科の1チームが一般の部で第三位、女子チームが女子の部で第三位に入賞し、アベック受賞となりました。実際にレースを観戦し、上位チームのレベルの高さを考えると、とても誇らしい結果です。来年は、更に入賞チームが増えるよう戦力強化を考えておりますので、走力に自信のある方、是非ご連絡をお待ちしております。



外 来 診 療 担 当 医 師

■ 一 般 外 来

※受付時間 (初診:8時30分～11時まで)
再診:8時30分～12時まで)

令和6年2月1日現在

診療科等	月	火	水	木	金	備考		
内科/リウマチ科	片寄	岡田	片寄					
外科	大石	飯野	大石	飯野	大石			
整形外科	再診	脊椎	竹光 藤吉 古川	谷戸 小林 北川	梶川 湯浅 小柳津	許斐 加藤 矢内	松川 陣内 徳永	脊髄損傷 側 弯 脊椎・脊髄 (頸椎・胸椎・腰椎)
		関節	清水			吉原	笹崎 中村	股・膝関節・下肢
		手		渥美				手指・上肢
		肩		吉田 (第2,4,5週 13:30~)				
	一般		渥美		谷内			
初診	交替制							
リハビリテーション科	富岡	植村	松田		下村			
歯科	吉武 (第1・3・5週)	吉武 (第2・4週)	吉武	吉武	吉武	予約制		

■ 専 門 外 来 (全て予約のみ)

診療科等	月	火	水	木	金	備考
内科リウマチ				片寄 (13:00~)		予約制
装具外来 (リハビリ科)	リハビリ科医師 (13:00~)					予約制
側 弯	許斐(第1週午後) 古川(15:30~)			矢内(15:00~) 許斐(16:00~)		予約制
骨粗鬆症・筋老化					竹光 (第1・2・3・5週 13-15時) 矢内 (第1・3週 午前) 加藤(貴) (第2・4週 午前)	予約制

※循環器科、皮膚科、精神科については、一般外来を行っておりません。

診療について

診 療 日 月曜日～金曜日(祝日及び年末年始は除く)

診療受付時間 初診の方 午前8時30分～午前11時00分

再診の方 午前8時30分～午前12時00分

※急患は(整形外科) 随時受付けております。

専門外来については医事窓口にてお問合せ下さい。

毎月初めに保険証の提示をお願いします。変更のあった場合はお知らせ下さい。

独立行政法人国立病院機構 村山医療センター

〒208-0011 東京都武蔵村山市学園2-37-1

TEL 042-561-1221(代) FAX 042-564-2210

URL : <http://www.murayama-hosp.jp/>